

同窓会報

NO.60
2017.4

発行 — 〒992-0039 山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会 事務局 TEL 0238-22-0091 FAX 0238-22-0092 <http://all-kunori.net/>



公開授業「模擬国連」

H29.2.21

世界を見据える力

同窓会長 佐藤 せつ
(S1十三年卒)

学生への世界を見据えた取組みは段々重要さを増しています。米新大統領にトランプ氏が選ばれ、大変な勢いで世界に影響を及ぼす発言をしています。日本も例外ではなく、私たちの身近にも変化が生じるかもしれません。そう考えると、若い世代が国際的なコミュニケーション力を培う機会を得ることは意義があり、自然に平和の醸成に繋がる気も致します。

最後に九里学園の益々の発展を祈念し挨拶と致します。

同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。さて、去る十一月の米新において、「世界が繋がる」を実感」という九里学園の紹介の記事を拝見しました。世界最先端の「ZOOM」なる会議システムを生徒が留学生と共に体験し、国際交流を行ったとの内容でした。さすが廣志校長先生、留学生受け入れや最先端の教育の導入とは。生徒の将来を見据えた真剣な取組みにしばし感服し、同窓会の一員として誇りに思いました。

総会報告

6/25

女子ジャンプの黎明期を担う

小浅星子さんの講演から

西山 信子
(S四十五年卒)

「挑戦する気持ちが未来をひらく」と題して、日本女子ジャンパーの先駆者の小浅星子さんの講演を聞きました。御両親もおいで下さり、お二人に見守られての講演でした。高校時代の練習はもっぱら陸上競技部と一緒にでしたが、ハードなメニューを平気でこなされていました。冬期の休日は、お父さんの自動車で遠いジャンプ場へ行き練習したそうです。子と親が力を合わせての日々で、愛情と共にお金もかかつただろうと思いました。小浅さんはジャンプの女子チームが結成される以前より活躍されており、女子ジャンプの黎明期を支えた一人であつた訳です。あの高いジャンプ台から飛ぶのは怖いですが、着地までの爽快感がたまらないそうです。二年前に引退されて、現在は全日本チームのワックスマンとしてサポートをなさっています。名前も星子さんとは、いい響きです。

実行委員長

鈴木

里佳

(S六十年卒)

平成二十八年度の同窓会総会は、六月二十五日(土)に上杉城史苑に於いて、約八十名の先生方・同窓生の皆さんにご出席いただき、開催することができました。

今年度は懇親会の前に研修講演会として、

同窓生で現在スキージャンプのワックスマンとして活躍されている小浅星子さんの現役時代のニュース映像を観て、お話を聞きました。

この総会・懇親会にあわせて久しぶりに顔を合わせた友も多く、お互いに近況を報告し合い楽しい時間を過ごすことができました。

この総会・懇親会にあわせて久しぶりに顔を合わせた友も多く、お互いに近況を報告し合い楽しい時間を過ごすことができました。

学園近況

創立記念式典へお越しください

学校長 九里廣志

今年は創立記念にあわせて、以前同窓会主催で行ってきた『記念音楽会』を学校主催で催す予定です。今まで高嶋ちさ子さんや加羽沢美濃さん、錦織健さん、近藤嘉宏さん、12人のヴァイオリニスト等々の素晴らしい音楽家を連れてきてくださいました。高嶋音楽事務所さんと、どのような楽しい音楽会にしようかと現在検討中です。演奏会は9月28日(木)の午後に行います。多くの同窓生の方々にご鑑賞いただければと思っています。

また、例年9月13日の記念式典は在校生中心で行ってきましたが、今年度からは同窓生の方々にも自由にご参加いただける創立記念式にしたいと思っています。式典後の「私たちの主張」も是非お聞きいただきたいですし、そんな機会に耐震工事で新しくなった

体育館や校舎も見ていただきたいものです。詳しくは後日、同窓会HP等でご案内します。お楽しみに！





夢見がちだった高校時代は、ピアノ、バイオリン、声楽、絵画や華道と沢山のことを九里で経験しました。そのことが今の好奇心旺盛な自分にしてくれたそうです。「この先がどうなるか分かりませんが、疲れた時々休みながらでも、学ぶ気持ちだけは持ち続けて行きたいと思います。それが人生を豊かにしてくれると信じているからです」と語ってくださいました。

(S五十九年卒 新井千香代記)

イタリア・ミラノで歯科技工士をしています 鈴木 幸子 (S61年卒)

イタリア・ミラノの歯科医院に歯科技工士としてお勤めの鈴木さんに、イタリアでの生活をお聞きしました。

友人とイタリアに三ヶ月の語学留学をして、この国的心地よい空気感を満喫。「また来たい」と思える充実した経験をしたそうです。帰国後、歯科技工士を目指し、掛け持ちしている仕事の合間や深夜に集中して勉強し、四ヶ月間で国家資格を取得。研修生として経験を積んで、四十一歳の時ついにあこがれのイタリアに移住したそうです。

外国で暮らしていると私達には当たり前の事が、実は私達日本人しか持っていない事なのだと気付かされることがあるそうです。東日本大震災の報道で見た、日本人の他人を気遣う心や強さを自分たちも知りたい。そうありたいと思う人が増えているそうです。そんな私達日本人の良さをもっと知つてもらえたと、職場の同僚や後輩に日本文化のすばらしさを伝えようと試みているそうです。



お茶を視点として学ぶ

部活動紹介

茶道部

顧問 佐藤由美

私達茶道部は、多くの先輩方の実績のもと、長年活動を続けてきました。部の活動では、表千家の茶道の先生である大石喜子先生から御指導を受けています。現在、二年生が四人、一年生が四人の八名で活動しています。

一年生に男子の部員が二名いますが、茶道の世界では珍しいことではありません。普段は、茶道のお点前はもちろんのこと、千利休から数えて四代目に表千家と裏千家に別れたことなど、茶の歴史にも触れてています。そして抹茶が昔は薬であったことなど、お茶に関わる多くのことを学んでいます。

今年、新しくお茶室ができたことで、大変生徒達は喜んでおり、ますます活動に意欲を出しているところです。

皆様

お久しぶりです



中村 光代 先生
(旧姓 今関)

民生児童委員をしています



皆様お変わりありませんか。私はとうとう「後期高齢」の世代に足を踏み入れました。

思いおこせば、九里学園にお世話になつたのは、新潟沖地震のあった昭和三十九年から平成十六年までの四十年間でした。退職してから十四年も過ぎておりますから、新採の年から五十四年、半世紀以上も過ぎてしまつてゐるのです。子育ても遠い昔、仕事も退き時間の余裕が出来てくると昔のことが懐かしく思い出す時が多くなりました。

今は幻となつた校舎、生徒数が一、五〇〇名を超えるクラスが五十一名、一年生が十一クラスという大所帯、そこでの学園生活で今でもなつかしく思い出されるのは、冬のダルマストーブや全校一斉の大掃除、素足でタワシをもつてせつせと磨く姿など、

ここに書き尽くせないほどの色々な行事の中で、喜びや苦しみを共にした日々です。時代の変化と共に学園も大きく変わりましたが、まだ現存する正面玄関を見上げホッとする気持ちになります。

半世紀を過ぎた今、より便利にと日常の暮らしの様子が一変、人工知能が人間の思考を追い抜く時代、もしかしたら私の介護もロボットのお世話になるのかと恐ろしい気がします。

数年前から民生児童委員の仕事を引き受け、一人暮らしの方々の訪問等を行つておりますが、年を重ねても明るく前向きに生きておられる方が多く、逆に教えられる場面があります。やはり青春とは年齢ではなく、心の持ちようなのだと実感しています。

皆様もどうぞ、前向きによき年を重ねて下さるようお祈りしております。

**=九里祭参加= 同窓生作品展 8/27
デコレーションの作品をつくる**



今年も飯豊支部の皆さんをはじめ、卒業生の絵画や書、写真、手芸品、生け花にフラワーアレンジメントで、会場いっぱいに飾っていただきました。体験コーナーでは、消しゴムはんこで活躍中の田辺香純さん(H8年卒)。パッチワーク、かわいい小物、いろいろなものにデコレーションをしてオリジナル作品を、松浦誠子さん(S61年卒)から教えて頂きました。小さいお子さんから大人まで大いに盛り上がって作品を作りました。

お陰様をもちまして、楽しく一日中笑い声が絶えない会場となりました。来年も、「我こそは」と思う方に是非ご参加いただき、さらに盛り上がりたいと思いますので、ご協力宜しくお願ひします。

昭和四十年、一階に生徒ホール、二階に図書館、三階に多目的な空間が配置された中央校舎が完成しました。生徒ホールはソファーやなどがある「生徒の憩いの空間」として、また、当時の学校図書館としては画期的な閲覧スペースと蔵書数であったということで、九里茂三先生が「他校にない斬新な施設」として大変気に入っていたそうです。その校舎も現在の耐震基準に満たないとことで今回全面改築となりました。新中央校舎は、一階に引き続き生徒ホール、二階に中央職員室と面談室、そして三階には主体的に対話的に学ぶ授業が出来る「アクティブラーニング室」を二教室配置しました。平成二十九年三月に完成しましたので、近くにお立ち寄りの際はぜひ新中央校舎をご覧ください。

生徒ホール・旧図書館棟が 新しくなりました

教頭 井澤 治



私の高校時代

最高の自分になる

若林あい子さん（旧姓 松本 H12年卒）



左が若林さん

「九里学園、最高ですか!?」「最高でーす!!」卒業式の最後に、卒業生全員で叫んだ言葉だ。三年間お世話になった先生方、十八年間育ててくれた家族、そして九里学園で出逢った大切な仲間達に向けて、ありつけのありがとうの気持ちを込めて卒業証書を天に上げた。

あの日から約十七年。本当に色々な事があった。何かに躊躇したり、悩んだりすると、あの頃描いていた自分の将来像に私は近付けているのだろうか?と、いつも考える。そして、なりたい自分を想像し、そこに辿り着くために何をすべきなのか、自分自身や周りの人ととことん向き合う。これは、部活や生徒会活動等に毎日忙しく走り回っていた三年間の中で、たくさんの先生や仲間と出逢い、様々な出来事を通して身に付け、今では自分の人生を自分らしく生き抜くための術となっている。

私は今、二人の男の子を育てるシングルマザー。あの頃に負けないくらい朝から晩まで毎日忙しく走り回っているが、これから年齢を重ねても、今よりもっと笑顔いっぱい、キラキラ輝く女性であり、母であり、一人の人間でありたいと思う。そしていつか、私の描く『最高の自分』になる!!

連続40年インターハイ 出場を祝う会－陸上競技部－

安達桂子(H19年卒)

1月28日(土)の米沢市は雪も降らず、この時期にしてはとても穏やかな日でした。会場は陸協関係者、先生方のご友人をはじめ、卒業生、生徒と保護者、九里の先生方等、200名を超える参加者で大変賑わいました。会場には、IHに出場した選手の写真がずらりと並んでいましたが、この40年間で延べ170人もの方々が出場したのですから当然のことです。

私たちの年代が多くが参加し、久しぶりの再会を果たすことが出来ました。先生方を囲んでこんなふうに写真を撮る日が来ることを高校生の時には想像していませんでした。また、卒業生と生徒、みんなで「いけいけ(応援)」をし、卒業生のほうが大きな声を出して盛り上がっていたように思います。

私は、30年連続IH出場を先生方が成し遂げられた年、高校3年生でした。IHには一度も出場することが出来ませんでしたが、現在も先生方にご指導頂いて、選手として試合に出場しています。この10年間、近くでIHへの挑戦をみせて頂きました。後輩にアドバイスするようになって、他人を動かすことは自分を動かすことよりも何倍もパワーが必要だと感じます。40年連続の偉業を成し遂げても、41年目を目指す選手のために、今日も当たり前のように練習に取り組まれている先生方に、ただただ尊敬と感謝をするばかりです。私も少しでもお役に立ち、次の50年のお祝いの時には、自分が関わった生徒の写真が会場に飾られたらとても嬉しいだろうなと心から思っています。

※IH=インターハイ



編集後記

学園は、昨年創立百十五周年を迎えた。校舎の改修も終了し、新たな時代を迎えます。だからこそ、これまでの歴史を今一度確認し、消えゆく声を残さなくてはいけないのではないかと思う、今この頃です。

(新井記)



アドレス
<http://all-kunori.net/>

投稿はメール、封書、はがきでお送り下さい。

(1)メールあて先
dousou@
tw.kunori-h.ed.jp

(2)封書、はがきの宛先は表紙の住所をご覧下さい

同窓生の集い(総会)は、
6月24日(土)です。

- ★今年の運営当番は卒業年が2と3のつく学年(昭和32、33、42、43、52、53、62、63、平成2、3、12、13、22、23、29)です。詳しくは別紙を参照の上、お申し込みいただけますようご案内いたします。
- また、左記アドレスからもお申し込みいただけますのでご利用ください。
- ★クラス会をされた方は事務局までご一報ください。
- ★九里祭で展示する同窓生の作品を募集しています。

